

農地パトと担い手マッチングによる 優良農地の保全（奈良県 川西町）

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他（農業
委員会の体
制強化等）

1 町の特徴と状況

【地理的条件】

川西町は、大和盆地のほぼ中央に位置する、東西3.4キロメートル、南北1.9キロメートル、総面積5.93平方キロメートルの非常にコンパクトな町で、大阪近郊のベッドタウンとして発展してきました。地形的には寺川・飛鳥川・曾我川・初瀬川の4つの一級河川が一同に集結して大和川に注ぐ水辺の町です。そのような地形特性から地域農業は水田が中心ですが、近年における住宅地開発や工業団地の誘致等により田園都市としての機能も有している。

【農用地の特徴・作付け作物】

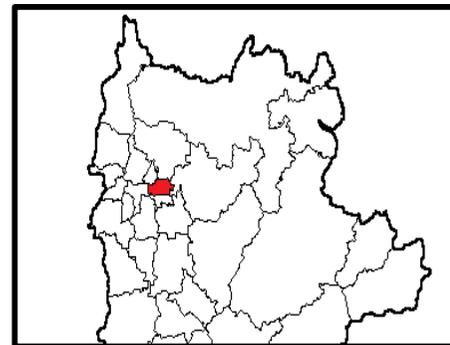
- ・農地面積：170ha（うち田：149ha、畑：21ha）※農水省耕地面積より
- ・大和川流域の低湿地帯であるため、稲作中心の農業体系となっている。
- ・水田転作ではハウレンソウを中心にナスビ等が栽培されている。
- ・畑地では、結崎ネブカや季節野菜が栽培されている。
- ・令和元年度より青年新規就農者（2名）によるイチゴの高設栽培が行われている。

【農業経営の状況】

- ・ベッドタウンと水田地帯の立地条件から、農業者の大半が第2種兼業農家で、専業農家は少ない。

【担い手の状況】

- ・農業者の高齢化と離農が進み、作付け委託要望が増えている現況にある。一方、受け皿となる担い手が少なく、その許容量も飽和状態になりつつある。



【農業委員会体制】

（令和5年7月20日改選）
委員数：14名

2 地区の課題

- ・農地面積の平均が10a強と狭く、大型機械導入等による効率経営が困難である。
- ・各地域で高齢化と後継者不足が顕著となり、将来農業の継続が危ぶまれている。
- ・優良農地の遊休化率は低いが、悪条件の農地（水利が悪い、囲繞など）を中心に、遊休農地化しつつある。
- ・サラリーマンによる稲作農業が中心となっているため、高収益作物の作付けなど、儲かる農業に転換、踏み込める農業者がいない。

3 課題解決に向けた活動と今後

農業者の高齢化と後継者不足による作付け委託要望については、農地バンク事業の活用により近隣市町村の担い手とのマッチングを積極的に図り、優良農地の保全に努めている。また、遊休農地については、農地パトロールと農業委員による戸別訪問により作付け再開と保管理を促し、解消に努めている。今後は集落営農の立ち上げ協力や高収益作物への作付け転換の推進など、将来農業を見据えた取り組みが必要である。（令和5年度中間管理機構利用権設定面積：4.4ha 耕作放棄地 面積：5.24ha）